

プレミアムラグジュアリーブランドグループ
BLBG株式会社 田窪寿保CEO、
 凄いビスポーク・トラベルを語る

1週間で270万円のイギリスの旅は入り口にすぎない

(発行所代筆)

ローマ教皇に会いたいと思ったら、合わせてくれるトラベルエージェンシーがある。
 英ブラウン+ハドソン社が打ち出すビスポーク・トラベルは、特別な体験価値をお金持ちに提供する。
 プリティッシュ・ラグジュアリー・ブランド・グループの田窪寿保さんにその詳細を聞いた。

田窪寿保

プリティッシュ・ラグジュアリー・ブランド・グループ代表取締役
 1966年、東京生まれ。英ヴァージン・アトランティック航空を経て独立。2009年に東京・青山にヴァルカニス・ロンドンを開業。イギリス車のコンクラーとしても知られる。

19世紀末に誕生したイギリスの旅行カバン、グローブ・トロッターは女王陛下御用達の名品として知られている。チャーチル、南極探検家のスコット、エベレストを制したヒラリーも愛用していた。最近ではケイト・モス、デビッド・ベッカム夫妻、そして映画「007スペクター」ではジェームズ・ボンドも使っている。いまやファッション・アイテムのひとつに数えられる。

このグローブ・トロッターを日本に本格的に紹介したのが田窪寿保さんで、それは今から20年ほど前のことだった。田窪さんは当時、ヴァージン・アトランティック航空で働いていた。グローブ・トロッターを知ったのは、ヴァージンのパイロットたちが使っていたからだ。プリティッシュ・エアウェイズ(BA)のパイロットたちの愛用品でもあった。ヴァージンのパイロットはBAからやってきた人ばかりだったから、当然のことだった。

100年の歴史を持つ、ヴァルカン・ファイバーという軽くて丈夫な紙製のトラベルケースが再認知されるのに日本市場が果たした役割は大きかった。1980年代に日本での人気から火がついたイギリスの小型車、ミニに近い、と田窪さんは表現する。田窪さんはクルマ好きでもある。その田窪さんがグローブ・トロッター 銀座店のオープン記念として用意したのが、ここにご紹介するスペシャルなツアーである。イギリスの超富裕層向け個人旅行代理店「ブラウン+ハドソン」と組んで実現した超ディープなイギリスの旅だ。

そもそも「ブラウン+ハドソン」とは何か？ 田窪さんは

こう説明する。「完璧なビスポークで、旅行に関して「ナッシング・イズ・インポッシブル」というのが彼ら。できないことは一切ありません。ローマ教皇に会いたいと言ったら会わせるとか。「お金持ちはお金で買うものはいらないと思っている」と彼らは言うんです。お金で買えないものが欲しい、それは体験なり経験である」と。

創業は20年ほど前。創業者のひとりであるフィリップ・ブラウンはイギリスの名門の生まれで、貴族のネットワークを持っている。8カ国語を話すグローブ・トロッター(世界アチコチ旅行するひと)でもある。相手にしているのは「ウルトラ・ハイ・ネット・ワース・インカム」(超高純資産収入)の人たちで、カウンセリング料として、まず1000ポンド、およそ15万円いただく。顧客から話を聞いて、リサーチする。北極でクマを撃ちたいとか、気球に乗りたいたとか、最近ではジェームズ・ボンドの足跡を追って映画の全部のロケ地に行き、そのロケ地で監督に会う、なんてことも実現させた。顧客は平均ひとり2万ポンド(約300万円)からがスタートで、上は1億円以上の旅もある。

今回のツアーはほんの入り口にすぎない。そもそもビスポークではないツアーなんて、ブラウン+ハドソンは本来やらないのだから。で、その中身を簡単に記すと、催行は来春、期間はおよそ1週間で、費用はひとり1万8000ポンド(約270万円)。参加者には、機内持ち込み可能な21インチのグローブ・トロッターのトローリーケースをビスポークでプレゼントする。ただし、集合・解散はロンドンで、そこまでの旅費は含まれていない。

ツアーには2種類ある。ロンドンで1週間過ごす「プロペラ」と、コッツウォルズで3日、スコットランドで4日過ごし、8日目にエディンバラ空港を立つ「ジェット」である。前者は、ロンドンの名だたるホテルに宿泊し、ロンドン塔や大英博物館を歴史家と一緒に「私的に」回ったり、ミシュランの星付き超人気レストラン「ファット・ダック」に行ったりする、ロンドン三昧の歴史と美食の旅だ。

後者はボロ、馬に乗って長い柄のついた木箱みたいなのでボールを打つアレですね。のクラブを訪問したり、ビジョン・シューティング、セント・アンドリュースでのゴルフなど、イギリスならではの貴族的なスポーツを楽しんだりするコースである。シューティングは30年以上もイギリス最初の金メダリストを鍛えてきた人が指導してくれる。日本でいうと、平井伯昌コーチが平泳ぎを教えてくれる、みたいなことも。ゴルフは欧州PGAツアーの賞金王、「モンティ」ことコリン・モンゴメリーがジョインしてくれる。筆者はゴルフ門外漢ながら、たぶん石川遼よりスコイ。





QUEEN ELIZABETH COLLECTION

クラブマンシップ保護に
貢献する限定コレクション

グローブ・トロッキーはエリザベス女王生誕90歳を祝い、ロイヤル「クイーン・エリザベス」コレクションを発表。女王陛下のみが使用することを許される、英国王室専用指定色、ロイヤルクラレットが美しい。



左/21インチトrolleyケース ¥350,000、
上/26インチトrolleyケース ¥410,000、
下/9インチジュエリーケース ¥240,000
(グローブ・トロッキー 銀座 03-6161-1897)



QUESTとはQueen Elizabeth Scholarship Trustのこと。英国の伝統的なクラブマンシップを保護していくために発足した奨学金制度。

どちらもハイライトに位置付けられているのがロイヤル・ファミリーのメンバーとのディナーで、誰かは明かすことができない。とはいえ、女王陛下の親戚の人と一緒にごはん食べるなんて、ミーハーというか恐れ多いというか、めんどくさいというか、緊張するではないか……。そんなことを超富裕層は望んでいるのでしょうか？

「ロイヤル・ファミリーの家に招かれ、一緒にごはんを食べるといのは、なんていうか、本で読むとか対談するのではなく、その人の生活に触れるというのはなかなかできない。僕もアラン・ドロンと会えるというツアーに携わってきた。一緒に写真が撮れるというのでおばちゃんがいっぱい行く。でもそういうものではなくて、対等の立場でお話ししましょうということですよ」

それでもピンときてない筆者に対して、田窪さんは言葉を変えてこう語る。

「ロンドンでは世界で5つ星のホテルが一番多い都市です。20年前とはお金持ちの数が違う。だって、街中で見るロールス、ベントレー、アストンの数がハンパない。ものすごいお金持ちの外国人がブリティッシュネスを求めてワーッ

と来ている。超バブルですよ、イギリスは。そのお金持ちのガイジンたちが本当のイギリスを求めて、それに応えているのがこのツアーです。たとえば、想像してみてください。東京に1泊200万円のスイートが当たり前のガイジンが普通にやってきて、「もっと日本いいところに連れていけ」みたいなことを言われたら……」

皇居に1泊する、みたいなの……。

「それができちゃうのが、資本主義が生まれた国なんですよ。ここはだって、女王をバカにしても右翼がやってきて街宣車は来ないですからね。ロイヤル・ファミリーとのディナーがウリにできちゃう」

文化の深度、歴史と伝統をイギリスはビジネスにしている。それがビジネスになる時代なのだ、とも言う。閉じられた扉の向こう側をのぞくことができる。とはいえ、今回のツアーはあくまで「入門編」で、まだ上にはいっぱいある。「これがきっかけで本当のビスポー・トラベルを希望する人が出てくるかもしれない。日本からの真の「グローブ・トロッキー」、世界を旅する人が出てくると嬉しいですね」と田窪さんはおっしゃるのでした。 (文・今尾直樹)

QUESTとはQueen Elizabeth Scholarship Trustのこと

1. セント・アンドリュースなど、世界中のゴルファーが憧れる地でのプレイをブッキングしてくれる。2. ブラウン・ハドソンによるビスポー・トラベルでは、顧客のヒアリングによって宿泊施設をセレクトしてくれる。3. 4. グローブ・トロッキーの専用プランは、「ジェット」と「プロペラ」のふたつが用意される。どちらも1週間の旅程となり、グローブ・トロッキーと英国の歴史に触れる内容になる。5. 代表をつとめるファミリー・ブランド。